

ハワイからの四国遍路巡拝団の歴史

モートン常慈（徳島大学教養教育院准教授）

The History of Pilgrimage Groups from Hawai'i to Shikoku David George Moreton Associate Professor, Tokushima University

This paper examines the history of groups from Hawai'i who have come to Shikoku to visit some or all of the eighty-eight sacred sites along the Shikoku pilgrimage route. Previous research by Hoshino Eiki and Kondo Ryūjirō, have examined and presented details about the various replica miniature eighty-eight pilgrimage routes in Hawai'i yet until now no one has attempted to determine when the earth was removed from each of the sacred sites in Shikoku and taken back to Hawai'i to create these miniature pilgrimage routes or osunafumi (walking on sand) pilgrimages. There are a few references in books etc. of groups coming from Hawai'i, but details are scarce and, until now, little concrete proof has been provided as to when these groups came, how long they stayed, how many people participated, or information about their pilgrimage tours. For the first time, this study will present these answers based on documents such as newspapers found in Shikoku and Hawai'i as well as from interviews with guides and staff at bus companies. As a result, it will be clear that group tours were held before 1953, the year when Iyotetsu bus company first offered a pilgrimage bus tour, that tours have been held quite frequently reaching a peak in 1974, the 1200th anniversary of the birth of Kōbō Daishi, and that the groups usually used Iyotetsu or Setouchi company buses. This study demonstrates that Buddhists in Hawai'i have been participating in pilgrimage tours to Shikoku for such longer and to a greater degree than previously assumed.

はじめに

本稿では、ハワイから四国霊場八十八ヶ所の一部または全部を巡拝するために来日した集団の歴史について考察する。ハワイのミニチュア八十八ヶ所写し霊場については、星野英紀氏や近藤隆二郎氏などの先行研究があるが、ミニチュア巡礼路やお砂踏み巡礼を作るために四国の霊場からいつ土が採取され、ハワイに持ち帰られたかについては、これまで誰も明らかにしてこなかった。ハワイから巡拝団が四国に来たという短い記述はいくつかあるが、彼らはいつ来たのか、どれくらい滞在したのか、何人が参加したのか、巡礼ツアーの様子等の詳細はほとんど解明されてこなかった。本研究では、四国やハワイで発見された新聞などの資料と、一部の参加者やガイドへのインタビューから、これらの答えを初めて提示するものである。

1. ハワイにおける仏教の歴史～明治時代から1930年代まで

1868年からハワイへの移民が始まって、約30年後、徐々に様々な仏教宗派の僧侶がハワイで布教活動に努めるようになった。1902年に真言宗の僧侶がハワイに行ったが、布教所が創立されたのは1914年であったと言われている。ⁱ『Japanese Buddhist Temples』には、「初期の真言宗グループは、日本の本部から派遣された聖職者ではなく、弘法大師の一般的な信者が、女性を中心とした大師講を結成して設立された。」「1902年にハワイに到着した最初の公式な真言宗の僧侶は、ユジリ・ホーゲン師だった。彼はマウイ島のラハイナに小さな大師堂を設立した。現在、主要な島々には12の真言宗寺院がある。」とある。ⁱⁱ

ハワイからの巡拝団についての最初の手掛かりは1923年4月16日のHonolulu Advertiser新聞に掲載されている。そこには、「ホノルル仏教信者、巡礼ツアーに出る」という見出しの記事がある。その内容は次の通りである。

仏教真言宗の本部である高野山や四国という島にある八十八ヶ所霊場への巡礼は、真言ミッションの部長K. 石川によって計画されている。巡拝団を作るための許可は日本大使館により

下された。その巡拝団のメンバーは、浄土宗や真言宗の信者であり、8月26日に東洋汽船会社の太陽丸でホノルルを出発する。彼らは約3か月間日本に滞在して、その他の興味深い場所にも訪れる。四国という島にある八十八カ所は真言宗の創立者弘法大師に捧げられている。ⁱⁱⁱ

残念ながらこのツアーについての詳細が分からない。しかし、大正時代に、このような巡礼ツアーが計画されたことは初めての発見だろう。ハワイからの巡拝団についての次の記述は1931年にドイツ語で出版された『Wallfahrt zu Zweien: Die 88 Heiligen Stätten von Shikoku』にある。1922～1928年の間、松山に住んでいた著者のアルフレット・ボーナー氏は「…日本の各地から海外に渡ったハワイ移民の集落の中には、毎年誰かを八十八カ所に派遣する協会がある。」^{iv}と書いたが、そのような協会についての詳細はない。四国へ行った巡拝団についての具体的な手掛かりはハワイ真言宗寺院の前にあるオベリスクや、寺院の僧侶による証言である。オベリスクについて僧侶は、「1934年にメンバーが初めて四国だけでなく、京都や和歌山を訪れたことを記念して依頼されたオベリスクだ。」と語っている^v。そして、『Guardian of the Sea-Jizō in Hawai'i』にはさらに詳しい情報がある。

Reverend Tsuruの証言：私たちの巡礼は「お砂踏み」と呼ばれていますが、これはハワイの一世が四国遍路のために日本に戻ってきて最初の巡礼をしたことに由来する。お寺の前には、その出来事を記念した大きなオベリスクがある。その碑文には、1934年に旅をしたと書かれている。一世がハワイに戻るときに、四国遍路の八十八ヶ所のお寺から土を持ち帰ったので、そのときの八十八袋が残っているんだよ。また、八十八ヶ寺の本尊の小さな像も八十八体持っている。それも私たちの教会の一世が持ち帰ったものだ。^{vi}

しかしながら、この1934年の巡拝団ツアーについての情報も今のところ出てこない。ハワイにあるミニ八十八カ所写し霊場については1980年代に星野英紀氏、そして2005年に近藤隆二郎氏が研究して論文として発表した。星野氏は「4カ所のミニチュア版四国遍路を確認することができた。その内1ヶ所は第二次大戦後に設けられた新しいものであったが、他の3ヶ所は大正期ないしそれ以前に遡る古いものである。」^{vii}と述べている。また近藤氏はその4つの所在地、設立時期、写真、経路概念図を示して、カウアイ島ウライの写し霊場は1904年、2つは1925～1926年、そして1つは1946年に設立されたとしている。^{viii}カウアイ島以外の霊場についてあまり情報は無いが、1926年に出版された記事には「各碑の下には、1000年以上前に弘法大師が四国に建立した八十八ヶ所の聖地から運ばれた神聖な砂が敷かれています。」と書いてある。^{ix}上記の情報から推理できることは、ハワイからの巡拝は1923年頃に始まって、1931年までに毎年グループを四国に派遣したこと、また最初の巡拝団は1934年頃四国に行ったこと、そしてカウアイ島の霊場にある四国の土は1926年以前のものということである。

2. 第二次世界大戦以降

ハワイのハレイワ真言宗の秋山泰憲師によると、第二次世界大戦前、日系人が日本に帰ることは費用の面で非常に困難であったそうだが、戦後、日系人がハワイやアメリカ本土にあった収容所から家に戻った後、再び巡礼団が組織され、四国へ行くようになったという^x。戦後、巡拝団が四国に行ったことだけでなく、四国遍路に関わる様々なイベントがハワイで実施されたことが分かっている。例えば、1946年にカウアイ島ワイメアに「ワイメア真言寺八十八カ所」巡りが設立されたことや、1949年6月にハワイ真言宗と弘法大師の信者が弘法大師の誕生1175年記念に合わせて特別な礼拝を行ったこと、弘法大師が創建された四国八十八ヶ所のお寺を巡るミニ巡礼が行われたことなどである。^{xi}

四国遍路の巡拝ツアーについては、1949年6月13日の読売新聞と6月16日の高知新聞に次のことが書いてある。「霊場・四国八十八カ所のお札所にハワイからモダン巡礼が近くやってくる。この一行はハワイ在留邦人15名から20名の団体で第84札所高松市屋島をふりだしに徳島、高知、愛媛を経て讃岐路に入り、八十八カ所の霊場を巡歴する。」そのグループは13日間をかけて貸切バスで四国を回り、一人当たりの料金は100ドルと記載されていた。次に1951年、別のグループが翌年に四国に来たことが分かる。1951年8月24日の高知新聞には「海超えた巡礼団ーハワイからー新年青葉の四国路へ」という記事が掲載されており、そ

のグループは1952年の3月28日に横浜港に着いてから、東京、奈良、大阪を見物して四国の高松に行き、貸切バスで16日間四国八十八カ所霊場を訪れると書いてある。

1953年4月26日伊予鉄バスが初めて四国遍路バスツアーを運行したことはよく知られているが、そのツアーが出発した数日後にハワイからの巡拝団がシボレー3台で四国を廻ったことは知られていないようだ^{xii}。その詳細は『伊予鉄50周年史』に少し書いてある。例えば、「遍路バス第一号の出発より数日後、「お遍路詣りをしたい」というハワイの人が広島より高浜に向かっていくとの知らせが自動車課に入った。八十八カ所は計画から実施へ移った段階であり、応待はできるものの英語を話せる者がいない…到着した一行は一、二世の同胞であり、言葉の心配は杞憂であった。お客様は導師熊谷先生ご一行で、丸一日手配準備に必したもののシボレー3台でのハイヤー巡拝が4月末にスタートした…十三日目の帰結願はバス組基帰着の2日後であった。」^{xiii}

1954年にもハワイからの巡拝団が四国に来た。4月21日の愛媛新聞に「ハイヤー三台連ねて・ハワイから豪勢な四国巡礼」という記事がある。そこには、「四国八十八カ所の巡礼詣ではるばるハワイから十一名が十九日松山入り…二十一から十七日間の予定で巡る四国巡礼のあれこれについて引率者の熊谷秀山さん（五九）は信仰をかねた観光旅行ですよ。十七日間みんなで楽しく巡礼したいと思います。」という説明がある。51番石手寺からスタートして、松山に戻るという行程だった。

1955年の巡拝団ツアーの詳細については新聞記事等の情報源がいくつもある。例えば、『四国八十八カ所霊場と遍路道・調査報告書7・大日寺・第4番札所』からは、伊予鉄道株式会社は大日寺宛に、1955年4月10日に「ハワイ（バス）団体」、4月30日に「ハワイ（ハイヤー）団体」が大日寺を訪れることを手紙で伝えたことが分かる^{xiv}。また、4月13日の徳島新聞には「ハワイから「おへんろ部隊」・百万円のお念仏・バス貸切って阿波路入り」という写真付き（キャプション：太龍寺の山道を歩くハワイ観光団）という記事が掲載されている。このグループには男性4人と女性6人がいて、一人当たり100万円を払ったようで、「その実一人一人がつえと数珠を手に「ナムアミダブツ」を唱えて四国霊場を巡るおへんろさんであった。」とあった。

1956年の春には13人（男性4人、女性9人）という巡拝団が四国遍路をしたことも判明する。5月14日の徳島新聞に「ハワイから巡礼団 徳島入り・ワンピースに数珠がけのいでたち」という記事があり、「ハワイ島、パアウイロ金剛寺主芝覚雄さん（四七）が団長」で、「四国霊場めぐりだけでも五万数千円をつかう豪華なお遍路部隊だ。」とある。そのグループについてのニュースは20日に高知新聞に掲載された。見出しは「土佐路の新縁を満喫・ハワイから四国巡拝団」であり、「50年ぶりの帰国という60才の一世婆さんから、初めて日本の土を踏むという10才の三世嬢ちゃんまで日系市民14人…仏を忘れぬ熱心



1954年4月21日 愛媛新聞：出発を前に語りあう一行



1955年4月16日 高知新聞：雪溪寺参拝するハワイからの巡拝団



1956年5月20日 高知新聞：ハワイ帰りの四国巡礼一行（青龍寺で）

な真言宗徒。」という説明文がある。

伊予鉄道観光より提供を受けた「ハワイ巡拝団について」の表（参照：p.36）には、1957年と1958年に巡拝団が伊予鉄バスを使用したと書いてあるが、それらのツアーの情報はまだ見つからない。その次の1961年の巡礼ツアーについて著者は、当時先達をされた秋山泰憲氏から1961年9月30日に松山城の前で撮った参加者の写真を頂いた。そこには「四国霊場巡拝記念・主催・ハワイハレイワ真言宗弘昭寺・1961年9月21日～10月5日」と書いてある。写真に写っている人数は17人だが、数名の伊予鉄道係員も含まれている。秋山氏によると、伊予鉄スタッフは3人であったという^{xv}。

同じく「ハワイ巡拝団について」の表をみる（参照：p.36）と、1989年まで次の巡拝団ツアーが来なかったと書いてあるが、実は1963年にもハワイ巡拝団が訪れている。しかし、彼らは伊予鉄バスではなく瀬戸内バスを利用していた。瀬戸内運輸株式会社の資料によると、彼らは4月30日から17泊18日で四国を回った。資料に掲載されている「ハワイ観光団」写真には11人が写っているが、3名は会社の帽子を被っているので、瀬戸内バスの係員であろう。瀬戸内バス会社のスタッフは、「1963年にハワイから巡拝観光団が来たという記録が残っており、広告をきっかけに組まれたツアーだと思われる。そして、ハワイ巡拝団のツアーは、全て英語に翻訳をしてご案内したと聞いている。」と述べている^{xvi}。その「広告」というのは、1950年後半から1970年頃まで伊予鉄バスや瀬戸内バスが『Industrial Review of Japan』や『This is Japan』という海外向けの雑誌に掲載したものだ。以下はそのうち2つの例である。



1961年 ハレイワ真言宗弘昭寺巡拝団



This is Japan - 1958



Industrial Review of Japan - 1962

翌年の1964年3月9日の高知新聞に「信仰とレジャーと団体巡拝バスぞくぞく・ハワイの遍路さんも」という記事や写真があった。そこには「団体客の主は新潟、滋賀、愛知が多く、なかにはハワイからきたお遍路さんもいて地元の人も驚いたようだ。」と書いてあったが、ハワイからのグループがどのバスを使用したかは不明である。記事によると、1964年が弘法大師の四国霊場開創1150年なので、伊予鉄、瀬戸内バスはそれぞれ60台も巡拝観光バスの予約を受けたという^{xvii}。

そして、1965年4月15日の読売新聞には「ハワイのお遍路さんら・横浜に観光が到着」という記事や写真がある。記事には次のことが書いてある。

ハワイからの観光客は、一世から三世までの七団体二百人。ホノルル市在住の真言宗の信者十八人の「高野山、四国巡拝団」は、弘法大師の1150年祭を見物するため、高野山に2日間滞在、そのあと四国の八十八ヵ所を遍路してハワイへ帰る…団長中村義静さんは「仏教に關係している寺院は、できるだけたくさん見られるようにスケジュールを組んだ」と言っていた。

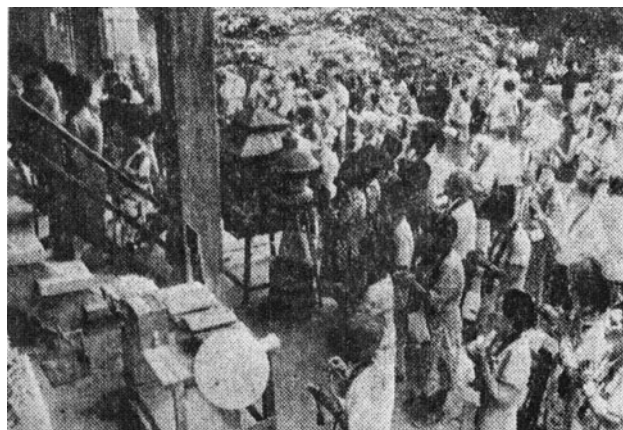
さらに、1973年6月2日の高知新聞には、「ハワイから大巡礼団・九十六人が霊場めぐり室戸市・アロハシャツのお遍路」という記事や写真が掲載されている。記事には、「弘法大師生誕1200年を記念してハワイ全島の信者から募集したもので…27日、羽田空港に着いたあと、徳島県鳴門市の一番札所霊山寺を振り出しに」出発したとある。そのグループの先達は真言宗ハワイ教区の加登哲英で、3台の大型バスで移動した。彼らは各寺院でお経等を読み上げたが、「お遍路にして珍しい派手な服装やサングラス姿、中にはアロハシャツを着込んだ人も見られた。」と記されている。

1989年の巡拝グループの詳細については、『フォトエッセイ・四国は、今』（山谷敏夫）に少々記述がある。「今年もハワイから、ハレイワ弘照寺・秋山泰憲住職とリリハ真言宗別院川西実仁住職の引率で17人の巡拝団が9月29日から7日間、四国半週、45霊場を巡った。祈願文、懺悔文、回向文などは英訳されて、英語でよみあげるとか。」と紹介している。^{xviii}

2002年の伊予鉄巡礼ツアーについての詳細は明らかでないが、2006年の巡拝団については『へんろ』（2006年12月1日・273号）に取り上げられている。そこには「3年ぶりハワイ巡拝団・弘法寺の日系人ら52人・英語交え読経・四国遍路はワンダフル」という見出しがあり、その巡拝ツアーについての記事や写真が掲載されている。記事によると、一行は10月22日ホノルル空港発、翌々日高野山に詣で、明石海峡大橋を渡って四国に入り、25日、1番札所霊山寺から巡拝の旅に出た。参加者はハワイ在住の日系人を中心に中国系や白人もいた。そして11月6日に四国遍路を終え、京都等で観光してから11日に帰国したそうだ。

また、2009年と2013年にはハワイ弘法寺からの Koyasan & Shikoku Pilgrimage ツアーが実施された。2009年に八十八ヵ所の半分の寺院を訪れ、2013年の9月19日から10月1日までのツアーは愛媛県の45番札所岩屋寺からスタートして、88番札所大窪寺で終わった。その後、参加者は神戸、大阪、高野山、奈良、伊勢神宮、名古屋城などの観光地に行った。

2017年9月17日の Honolulu Star-Advertiser 新聞には、JTB が企画した Shikoku Ohenro Pilgrimage ツアーの広告が掲載されている。ツアーの日程は2018年4月9日から16日の間で、1番札所から32番札所を訪れる予定で、募集人員は20人までであった。参加者は English stamp book (英語版の納経帳) をもらうことができ、そのツアーに Sendatsu master teach manners of Ohenro (お遍路のマナーを教えてくれる先達) 付き添うとされている。しかし、ツアーが実施されたかどうかの詳細は不明である。



1973年6月2日 高知新聞：本堂前で全員が声をそろえて読経するハワイからの大巡拝団（最御崎寺で）

Introducing New Escorted Tour 4/09 ~ 4/16
Shikoku OHENRO Pilgrimage Vol 1

- Visit #1 ~ #32 temple
- Onsen Stay
- English Stamp book & English Sutra book
- Sendatsu master teach manners of OHENRO
- Limited to 20 space
- Series Vol 1 ~ Vol 3 will complete your 88 temple visit

***Price based on DBL/p.p.**
 ADMISSION TICKETS AVAILABLE: Osaka Universal, Tokyo Disney and Ghibli tickets

JR RAIL PASS 1-WEEK ORDINARY...\$262~
 Price good till 9/20/17 GREEN.....\$350~

JTB Perfect moments, always
 ALA MOANA S.C. + EWA WING 1ST FL, MAKAI SIDE
 M-F 9am-5:30pm + SAT 9:00am-1:00pm + SUN CLOSED
 www.jtbusa.com + Branch Special + Honolulu + 808-979-0111

2017年：JTB ツアー 広告

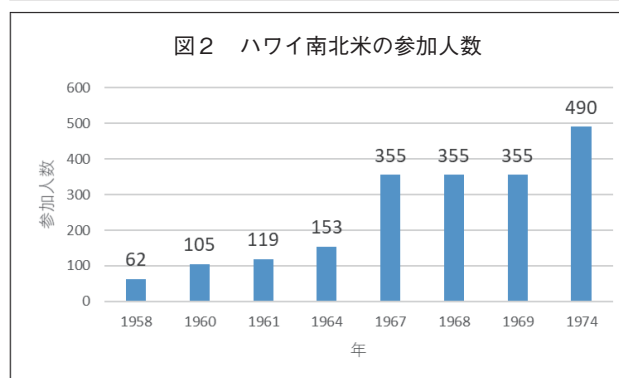
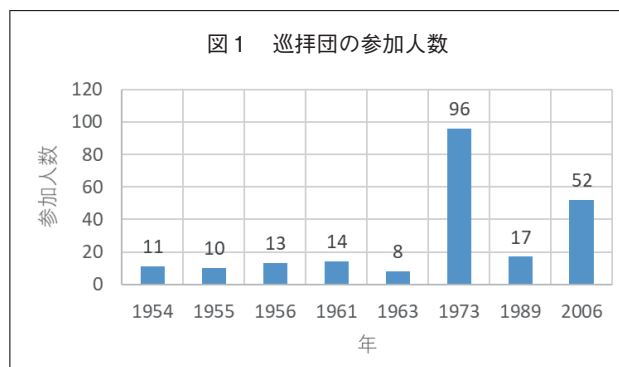
「ハワイ巡拝団について」

(伊予鉄道観光提供)

年号	団体名	責任者	特記事項
1953	車種シボレー 3 台・ハワイ巡拝団(ハイヤー)	熊谷先生	伊予鉄道巡拝バス第一号運行開始
1954	ハワイ巡拝団(タクシー) 巡拝	熊谷先生	車種シボレー
1955	ハワイ巡拝団(バス) 巡拝第一号	寺本良染先生	バスにて運行開始
1956	ハワイ巡拝団(バス) 巡拝第二号	芝覚雄先生	
1957	ハワイ巡拝団(真言宗ハワイ別院)	鳥取密明先生	
1958	ハワイ巡拝団(真言宗ハワイ別院)	鳥取密明先生	バス 3 台運行
1961	ハワイ巡拝団(ハレイワ弘昭寺)	秋山泰憲先生	秋山泰憲先生の書面
1989	ハワイ巡拝団(ハレイワ弘昭寺)	秋山泰憲先生	秋山泰憲先生の書面
1991	ハワイ巡拝団(ハレイワ弘昭寺)	秋山泰憲先生	秋山泰憲先生の書面
2002	ハワイ巡拝団(真言宗ハワイ別院)	沖村栄昇先生	ハワイ開教100周年伊予鉄道バス50年
2006	ハワイ巡拝団(弘法寺)(大師寺)(金剛寺)	沖村栄昇先生	
2009	ハワイ巡拝団(ハレイワ弘昭寺)	秋山泰憲先生	半周コースにて。

3. 参加者の人数

1950年代からどのぐらいの人がハワイからの四国遍路巡拝団ツアーに参加したのだろうか。前述の新聞記事から、年間参加人数の推移が分かった(図1)。その他の情報源として伊予鉄観光社が作成した「四国八十八ヶ所巡拝バス」のパンフレットがある。例えば、1958年の伊予鉄バスパンフレットには「四国八十八ヶ所巡拝バスを運行し、過去五年間にバス35台、日本全国は勿論遠く太平洋の彼方ハワイからも毎年お詣りを頂いております。」と書いてあり、1958年までの5年間に、バスで巡拝した人数は933名、その内の62名はハワイ出身であると分かる。そして、1960年のパンフレットには、「昭和28年以来運行したバスは77台で、参加した総人員は2277名で、ハワイ南北米の人数は105名である。日本全国は勿論遠くハワイ、ブラジルの方々からもお詣りを頂いております。」とある。しかし、パンフレットにある「ハワイ南北米」の数字はハワイだけでなく、ブラジルやアメリカ本土の数字も含まれている。しかし、巡拝バス合計参加人数も1973～1974年に随分増加していると分かる。その理由は、1974年が弘法大師生誕1200年周年だったからであろう(図2)。



終わりに

本稿では、ハワイからの四国遍路巡拝団の歴史を紹介した。戦前、巡拝団についての記述はいくつかあるが、詳細なものがないことは残念である。しかし戦後、巡拝団が頻繁に四国へ訪れたことが今回の研究でよく分かった。そして、いままで四国巡礼バスツアーが1953年に始まったとされてきたが、それ以前にハワイからのツアーが実行されたことが初めて分かった。そのグループは主に瀬戸内バスや伊予鉄バスを利用したことも判明した。この2社が海外向けの日本を紹介する雑誌に英語の広告を出したことが、巡拝団が多くなった要因の1つと言えるだろう。また、1974年は弘法大師生誕1200年であったため、同年に参加者がピー

クに達したが、その後、徐々にツアーの数は減少し、2018年頃が最後の巡拝ツアーとなったようである。^{xix}

しかし、伊予鉄バスの資料や新聞記事によると、アメリカ本土からも巡拝団が四国に来ていたことが分かる。例えば、カリフォルニア州にある高野山別院の宮田諦詮氏は、巡拝団の「参加者の多くはアメリカ在住者で、ロサンゼルス、サンホゼ、サクラメントなどのカリフォルニア出身者が大半を占めていました。中にはハワイ、コロラド、シアトル、台湾からの参加者もいた。」と述べている^{xx}。さらに、アメリカだけでなくブラジルからもグループが四国に来た証拠がある。例えば、1977年の高知新聞には「はるばるブラジルからお遍路さん・女性含め11人の日系人・里帰りと墓参りを機会に。」という記事があった。ここでは、ハワイからの巡拝団の歴史しか取り上げなかったが、四国遍路と世界との関連については、アメリカ本土やブラジルからの四国遍路巡拝団の歴史を調べる必要があるので、今後も探究を続けたい。

註

- i 星野英紀 1981「ハワイにおける大師信仰の展開と真言宗寺院の活動」『ハワイ日系人社会と日本宗教—ハワイ日系人宗教調査報告書—』、pp.137-153
近藤隆二郎 2005「ハワイ日系人社会における写し 巡礼地の成立と変遷」『ランドスケープ研究』、68(5)、pp.435-438
Okahata, James H. ed., 1971 "A History of Japanese in Hawaii", United Japanese Society of Hawaii. pp.228~230
- ii George J. Tanabe and Willa Jane Tanabe 2013 "Japanese Buddhist Temples in Hawai'i", pp. 6~7.
- iii The Honolulu Advertiser, April 16, 1923 "Honolulu Buddhist To Make Pilgrimage".
- iv 佐藤久光 2012 『同行二人の遍路・四国八十八ヵ所霊場』、p.64
- v 真言宗ハワイのスタッフからのメール。2010年11月8日。
- vi Clark, John R.K. 2007 "Guardian of the Sea - Jizō in Hawai'i." University of Hawaii Press, p. 135
- vii 星野英紀 1980「四国遍路における聖地性の特質」『現代宗教』、3号、p.90
- viii 近藤隆二郎 2005 「ハワイ日系人社会における 写し 巡礼地の成立と変遷」『ランドスケープ研究』 68(5)、p.435~438
- ix Mesick, Lilian, Dec. 1926 'Paradise of the Pacific', "The 88 Holy Places on Hawai'i's Garden Isle".
- x Letter written by Hakobu Kumagai, son of Shuzan Kumagai via Taiken Akiyama (email: November 1, 2010)
- xi Honolulu Newspaper, June 11, 1949, "Shingon Mission Plans Services Tonight, Sunday".
- xii <https://www.i-manabi.jp/system/regionals/regionals/ecode:1/10/view/1782>
- xiii 月間ヘンロ編集部（編）2003『伊予鉄巡拝バス五十周年史』、p.47
- xiv 徳島県教育委員会（編）2016 『四国八十八箇所霊場と遍路道・調査報告書7・四国八十八箇所霊場第4番札所 大日寺』、p.81
- xv インタビュー。2010年9月4日実施。
- xvi 瀬戸内運輸株式会社から2017年8月9日のメール。
- xvii 記事には「四国霊場開創千五百年に当たる..」が書いてあるが、正しいのは「千百五十年」だ。
- xviii 山谷敏夫 1989 『フォトエッセイ・四国は、今』
- xix 2021年4月21日に四国遍路のバーチャルバスツアーが実施されたそう。Hawai'i Herald新聞の広告。 <https://www.thehawaiiherald.com/2021/04/19/bulletin-board-virtual-bus-tour-in-shikoku/>
- xx 宮田諦詮からの手紙、2020年7月15日